QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

私も町のような人になりたい

1

女性のAさんは、幼い頃からの家庭不和により小学校に入学して間もなく知的障害児施設に入所しました。16歳頃から幻聴や妄想が見られ、精神病院の入退院を繰り返していました。18歳頃、本格的に精神病院に入院し、40歳になった現在まで入院しています。

2

入院後は、幻聴や妄想が途切れることなく続いています。35歳頃からは、病院に近い会社へ外勤に病院から通っています。会社では、主に反物に値札を縫いつける仕事を週3回行っています。

3

40歳のAさんは、精神発達遅滞に統合失調症を併せ持った状態ですが、35歳から始めた外勤は継続しています。

病院では、機嫌が悪いとき、すれ違う看護師に「背が大きくていいなぁ」「背が小さくていいなぁ」などとコンプレックスに感じていることを言います。また、他の患者とすれ違うときに「見るなっ！」「あっちへいけ」などと罵声を浴びせることもあります。

Aさんを非難する様な幻聴が聞こえるときには、その声に対して興奮しながら応答をしています。

4

機嫌がよいときは、病棟の患者さんの食後の後片付けを積極的に行ない、皆に感謝されています。また、週1回、病棟が喫茶を開くときには、ウエイトレスを行なっています。身だしなみや洗濯などの清潔行為は自立しています。外出も自由です。食事は、好き嫌いが激しく、副食は半分以上も捨ててしまいます。しかし、間食は大好きです。5

Aさんのひと月のお小遣いは、外勤の7,000円と病棟の喫茶店で得る3,000円の合計1万円です。また、生活保護の医療扶助の現物支給もあります。（入院日用品費の金銭給付を含む）

お小遣いの全てを食べ物か衣類に使っていました。衣類は町のブティックで買うのですが、買っては見たものの、着た姿を鏡で見ては破り捨てるという行為をくり返していました。理由は、「マネキンが着ているときには素敵なのに私が着ると似合わない」ということでした。

6

ある日、リカちゃん人形を一体買いました。それから人形に話しかけ、着せ替えなどを楽しそうに行なうことが日常となりました。この頃から、Aさんのお小遣いは、リカちゃん人形に着せる為の服を買うことに費やされています。

その後、リカちゃんの妹を買い求め、さらに両親を揃えて「家族」を作りました。日々、その「家族」を眺め、「家族」と対話をしています。入浴や外出の際にも、その「家族」を持ち歩いています。この頃より、Aさんに笑顔が多く見られるようになり、暴言も心なしか少なくなり、暴力はほとんどなくなりました。幻聴や妄想は相変わらずあります。 7

Aさんは、ある時、「私も町のような人になりたい」と言い出し、受け持ち看護師、病棟看護師長がAさんにその意志を確認したところ、決心は固いようでした。

さっそく主治医・受け持ち看護師・病棟看護師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士でカンファレンスが開かれ、Aさんの希望を叶えるために退院へ向けての支援が始まることになりました。Aさんの希望は、アパートでのひとり暮らしです。 8

■ 服薬内容

一回分ずつ手渡し
分2（朝食後・夕食後）：リスパダール2mg　ドグマチール錠100mg
分1（夕食後）：リピトール錠5mg
寝る前：ロヒプノール錠2mg　ロラメット錠　1mg

不穏時：レボトミン（25）1T
　　ホリゾン1A　im
不眠時：0.5mg

現在の服薬内容は、表の様になっています。

9

①食事…全く作れません（ポットから湯を出し、お茶は入れることが出来ます）。

②入浴…自分で湯を入れて湯加減を確認することは出来ません。病院で入浴することは可能ですが、街の銭湯に行ったことはありません。

③回覧板を近所に回す等の意味を理解することは困難です。

④電話を自分でかけたことはありません。

⑤鍵…自分のロッカーの鍵を開閉し貴重品を管理することは出来きます。しかし、家に鍵を掛けるという概念はありません。

⑥知らない人に道を尋ねたり、何かをお願いをすることは出来きません。

入院時のIQは4～5歳程度ですが、精神状態が良いときの日常会話は比較的スムーズです。また、自活するための能力は、表の様になっています。

10

家族は、できればAさんとあまり関わりたくないという意向が強いようです。家族が面会に訪れるのは、年に1回くらいです。

三ヵ月後の退院を目指して、どのような支援が可能でしょうか。退院後の援助も視野に入れて検討してみましょう。

11

QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

私も町のような人になりたい

制作著作　Copyright © 2011

「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」

（文部科学省 平成21年度 戦略的大学連携支援事業採択事業）

新潟医療福祉大学・埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学

原案　Portions Copyright © 2011

金谷光子・甲田充・西川薫（新潟医療福祉大学）

12